

# 餓死事件報告

## 「飼い犬7匹が空き地で餓死」

松山市東野3丁目の山あいの空き地で、市内の80代男性が飼っていた犬7匹が餓死していたことが9日、松山東署と松山市保健所の調べで分かった。近隣住民から通報を受けた市保健所は同日午後、男性の承諾を得て死骸を回収し、一緒にいた3匹を保護した。

松山東署は、動物愛護法違反の疑いも視野に、飼い主の男性から事情を聴くなどしている。

市保健所によると、7日に連絡を受け調査を開始。翌8日、

松山東署に連絡し、同日までに道路に面した部分に柵が設けられた空き地内で飼い犬10匹のうち7匹が死んでいるのを確認した。同署によると、飼い主の男性は、体調不良で10日くらいは空き地に行っていないと説明しているという。現場には多数おりが並んでいたが、えさや水はなく、おりの中で2匹、外で5匹が餓死、うち外の3匹はつながれた状態だった。生きていた3匹では、おりの1匹と外の1匹が衰弱していた。近くに住む男性らは「犬は10年近く前から飼われている。かわいそう」と話していた。

平成23年3月10日愛媛新聞

## 松山の男性飼育放棄犬8匹死ぬ 残された二つの命救って保護のNPO法人飼い主を募集

「せっかく助かったのに処分されるなんてあまりに哀れ」一。

今月上旬、松山市の山あいの空き地で飼育されていた犬10匹のうち7匹が餓死しているのが見つかった。市保健所に運ばれた生存の3匹のうち1匹は死亡、2匹は元気を取り戻したが元の飼い主が所有権を放棄したため、18日、犬猫の里親探しをしている同市のNPO法人「えひめイヌ・ネコの会」(高岸ちはり代表)が引き取った。会では2匹の新しい飼い主を募集している。2匹はともに雑種のメス。それぞれ1歳未満と3歳弱とみられる。

松山市東署などによると、市内の高齢男性が山中に設けた柵の中で飼育していたが、体調を崩し保護の約10日前から訪れていたなかったという。高岸代表は「新聞で事件を知った。8匹の死を無駄にしないためにも2匹を救うことで多頭飼育や

高齢者の飼育の問題を考えてほしかった」と話す。会はこれまで約4500頭の里親探しをしてきたが、引き取り手が現れない場合は会員が引き取ることも多く「既に飽和状態で、なかなか手を差し伸べなくなっている」という。2匹は同日、病院で簡単な検査を受けた後、里親が見つかるまでの一時預かりを申し出た会員と支援者の家に運ばれた。緊張しており、特に若い方は怯えている様子という。高岸代表は「できれば犬に慣れた人に、家族の一員として温かく迎えてほしい」と望む。松山市保健所によると、2009年度に収容した犬は494匹、猫936匹。うち引越しや飼い主の病気などによる所有権放棄は犬171匹、猫80匹に上るという。収容された犬猫は飼い主が現れない限り、毎週2回、県動物愛護センター(松山市東川町)に送られ、ほとんどが殺処分される。里親希望者はえひめイヌ・ネコの会=電話089(977)7564へ。

2011年3月21日月曜日 愛媛新聞

その後…

菜々ちゃん・はなちゃんは元気です!!

小さな新聞記事には衝撃の事実が書かれてありました。写真もなかったため、出た事さえ知らなかつた人も少なくありませんでした。保健所職員の方からは、かなり凶暴だと言われましたが、このまま処分されるのはあまりに悲惨で、生き残った2匹を引き出しました。当初はえも強くありましたが、それぞれの預かりさんの元で、本来の大人しい犬に落ち着きました。その後、菜々ちゃんには新しい飼い主さんが見つかりました。はなちゃんは預かりさんが飼い主さんになってくれました。



菜々ちゃん



はなちゃん